

カトガク歳時記 七月〜十二月

ユタ短期留学

本校の国際交流活動における最大の行事である短期留学が、七月二十五日から八月十九日までの二十六日間、アメリカ合衆国ユタ州で行われた。今年度の参加者は二年生六名、一年生一名の計七名であった。

日本を出発する前より英会話の練習、ホストファミリーとの連絡などの入念な準備を重ねた。その成果が実り、約一週間のキャンプや現地の小学校での日本語授業、聖歌隊のコンサートやミュージカルの鑑賞等、日本では経験できないような数々の体験をすることができた。充実したプログラムによって、生徒だけではなく私にとっても忘れることのできない経験となった。生徒たちは英語の勉強だけではなく、異文化理解や他者との交流の大切さを学ぶことができた。日本との違いを実際に自らの目や耳、肌で感じるといふ経験が非常に大きいと思う。この留学を経て、生徒たちは大きく成長した。



砂漠でのキャンプで歌の練習

留学中は、基本的に生徒たちは全員で一緒に行動した。そこにアメリカ人の学生がヘルパーとして加わり、様々な思い出を分かち合った。異国の人々に対して、初めは受け身になりがちだった生徒たちも、時を重ね、経験するにつれて積極的に発言したり、行動したりするようになり、その生徒たちの成長を日々感じることに私の楽しみとなった。

留学中の生活の基本はホームステイで、ホストファミリーは生徒たちをまるで本当の子どものように迎えてくれた。休日はホストファミリーと過ごすことが多く、生徒たちの思い出のページを共に飾ってくれた。別れの際の感謝の涙を忘れることは決してないだろう。

この留学は多くの人々の支えの下で成り立っている。コーディネイターのジョン氏をはじめ、アメリカで協力してくれたヘルパーやホストファミリー、また、このような機会を与えてくれた保護者の方々の協力があったからこそ成功することができた。その感謝の心を忘れず、留学で学んだことを今後の学校生活、そして人生に活かしてほしいと願っている。

引率責任者 小池 将



広大な大自然をバックに記念撮影



グッバイパーティーで日本の浴衣を披露

私のひまわり

今年度も九月に日本語弁論大会「私のひとこと」が実施された。発表者たちは五百人近い同級生たちを前にしながらも原稿をほとんど見ずに、ジェスチャーやパフォーマンスを交えながら、素晴らしいスピーチを披露してくれた。今年度は自分自身の経験や身近な話題ばかりではなく、社会的・時事的な話題・問題に対して正面から考え、意見を述べる発表者が多く、聴衆の生徒たちも、真剣に耳を傾けていた。

今年度も九月に日本語弁論大会「私のひとこと」が実施された。発表者たちは五百人近い同級生たちを前にしながらも原稿をほとんど見ずに、ジェスチャーやパフォーマンスを交えながら、素晴らしいスピーチを披露してくれた。今年度は自分自身の経験や身近な話題ばかりではなく、社会的・時事的な話題・問題に対して正面から考え、意見を述べる発表者が多く、聴衆の生徒たちも、真剣に耳を傾けていた。

3年生の部 入賞者

- 金賞 PⅢ1 小笠原尚平 「クドリヤフカの教訓」
- 銀賞 SPⅢ3 佐野美菜子 「世界中から愛される国日本」
- 銅賞 SPⅢ4 宮本元太 「日本介護の新たなミカタ」
- 特別賞 SPⅢ5 中島 賛 「夢をかなえる音と言葉」

2年生の部 入賞者

- 金賞 SPI2 内村綸笑 「自殺」
- 銅賞 GII1 岡部洸生 「ALL THINGS MUST PASS」
- 銀賞 PII3 氏家あかね 「夢のもと」

1年生の部 入賞者

- 金賞 SPI4 遠藤芽以 「生物多様性について」
- 銀賞 GI2 渡邊京佳 「障害があるということ」
- 銅賞 SPI2 久保茉莉奈 「今頑張れない奴は一生涯頑張れない」



3年生の部 出場者の記念撮影



3年生の部 金賞 小笠原尚平君



1年生の部 出場者の記念撮影



1年生の部 金賞 遠藤芽以さん



2年生の部 出場者の記念撮影



2年生の部 金賞 内村綸笑さん



総合学部のテーブルマナーの様子



進学部のテーブルマナーの様子



特進部のテーブルマナーの様子

十月四日(木)に三年生はテーブルマナーを実施した。特進部は三島プラザホテル、進学部はリバーサイドホテル、総合学部はホテル沼津キャッスルにて、フルコースを堪能しながら楽しくテーブルマナーを学んだ。

### テーブルマナー



総合学部 墨田区吾妻橋付近を散策



進学部 東京大学赤門前で記念撮影



特進部 箱根大涌谷にて黒卵を堪能

十月四日(木)に一年生は遠足へ出かけた。特進部は箱根、進学部は東京での大学見学、総合学部は東京へと出かけ、仲間たちとリラックスした楽しい時間を過ごした。

### 遠足



自転車マナー違反が悲惨な事故を引き起こす



生徒自身の実演で自転車マナーを学んだ

十一月二十八日(水)の六限に全一年生を対象とする交通安全教室を行った。今年度は本校の指定校でもある東部自動車学校の方々の協力のもと、交通安全、自転車マナー、交差点等にて発生しやすい自転車事故のケースや一時停止の重要性など、生徒やスタントマンの実演を交えながら、その危険性について学んだ。

### 交通安全教室

この修学旅行が大成で終わることができ、私たちに大切な思い出が数多くで改めて痛感しました。

「このような過ちは二度と起こしてはいけない」と、

楽しみでもあり、不安でもありという複雑な感情を抱きながら人生初めてのハワイに出发しました。ハワイの飛行場に到着した際に、自分が想像していたよりも暑いことにまず感動し、一気に気持ちが高まりました。ハワイで過ごした四日間は、どの日もとても充実しており、町を歩くたびにドキドキの連続で、日本との違いを数多く実感する毎日でした。ダイヤモンドヘッドから見た景色、ポリネシア文化センターでの挨拶の仕方や面白いガイドさん・・・一つひとつがとても良い思い出で、高校生活での大切な宝物になりました。その中でもパールハーバーは、「本当に日本とアメリカが戦争をしたんだな」ということを肌で感じ

### 総合学部 行き先…ハワイ

### 修学旅行



ハワイに到着しても、あまり外国に来たという感じがしませんでした。それでも空気が日本とは異なり、街

### 進学部

### 行き先…ハワイ



ポリネシア文化センターにて



ハワイの砂浜にてみんなでジャンプ

きたのは、先生方や保護者、旅行会社の方々等々、協力してくださった方の存在があったからだと思えます。感謝の気持ちを忘れずに、残りの学校生活を送っていきたくと思っています。GII4 谷中 志帆



カメハメハ大王像の前にて

高校生で友達と外国に行く経験はなかなかないと思います。みんなでハワイに行けたことは、私の一生の思い出になりました。PII1 濱尾 早織

四日目の班別研修では道に迷ってしまいましたが、現地の人々が、地図を開いて英語で説明してくれました。現地の人と英語で話すことによって、自分の狭かった世界が少し広がったような気がします。

の雰囲気や景色などが、とても新鮮でした。三日目は校長先生と一緒に見学させて頂きました。戦艦ミズーリでは快く一緒に写真を撮ってくださり、ポリネシア文化センターでの太鼓ショーの時は、楽しそうに話しかけてくださったりして、校長先生を身近に感じる貴重な体験となりました。

私は今まで外国に行った経験がありませんでした。今回の修学旅行で、異国の文化に触れることがこんなにも刺激的で素晴らしいものだと思えてもらいたい、凄くいい経験になりました。



オルセー美術館前にて記念撮影

六日間全てが思い出に残る最高の修学旅行でした。学年全体で大きなトラブルもなく、全員が無事に修学旅行を終えることができたのは凄く良かったことだと思います。

特進部 行き先…フランス



戦艦ミズーリにて校長先生と

私は合唱の指揮をするのが好きだ。指揮台は特等席である。なぜならそこは皆の歌を一番近くで聞けるからである。一つの合唱曲

SP II 一指揮者 塩屋喬介  
合唱コンクールを終えて

### 合唱コンクール



モンサンミッシェルをバックに

SP II 3 清水 陸

ルーブル美術館、凱旋門、エッフェル塔、モンサンミッシェル、ヴェルサイユ宮殿等、数々の史跡・世界遺産を巡り、肌で感じたことは今後の人生にも役立つものだと思います。この修学旅行で得た新たな絆、団結力を武器に、受験という大きな壁を全員で乗り越えていきたいと思えます。そして、この修学旅行での思い出は一生の宝物となるはずです。

が少しずつ私たちだけの歌になつていくのを一番間近で感じられるからだ。私たちが選んだ合唱曲『花をさがす少女』は、戦争の中に生きる少女の、あまりにも悲しい運命を歌った曲だ。普段は明るく、賑やかなクラスの雰囲気とは対照的な暗い曲である。それをどのように私たちの曲にしていくかという、クラス全員での闘いが始まった。それは決して楽な道程ではなかった。人数も少なく、練習時間も満足にとれない状況の中で、不安に負けそうになったこともあった。それでも私たちに「優勝する」という明確な目標があつたので、誰一人として道を誤ることはなかった。そして何より、最後まで私たちの成長を信じ、支えてくださった渡辺浩美先生、浅井健雄先生の励ましが私たちの背中を押してくれた。合唱に完成はない。私たちの『花をさがす少女』の完成度がどのようなものだったのかということは知ることはできない。それでも私たちが優勝を手にした時の仲間の笑顔には後悔の色は微塵もなく、そしてどこまでも眩しかった。

### 平成24年度 第46回校内合唱コンクール(決勝) 出場クラス

発表順	クラス	曲名	指揮者	伴奏者
1	SP I 1	夏	小林大地	土屋真子
2	G I 1	手紙	市川賢虎	阿部晴香
3	SP II 3	時を越えて	森下将司	川村星詩瑠
4	SP II 1	花をさがす少女	塩屋喬介	長谷川明香
5	G II 2	虹	山崎堅也	樋沼百合香
6	SP I 2	春に	深沢航平	服部夢海
7	SP II 2	言葉にすれば	武井鞠奈	村上美緒
8	P II 1	走る川	渋谷湧陽	高木梨花
9	P I 5	大切なもの	久保田亜緒衣	石井陽菜
10	G II 3	栄光の架橋	神野大地	藤本和佳
11	G I 3	きみにとどけよう	後藤健太郎	萩原京佑
12	P I 3	あなたへ 旅立ちに寄せるメッセージ	笠間幹久	山田莉穂
13	P II 6	この地球のどこかで	土屋真希	川口桃子



金賞 G II 2



G II 2 記念写真



金賞 SP II 2



SP II 2 記念写真



金賞 P II 1



P II 1 記念写真



金賞 G II 3



G II 3 記念写真

# 加藤学園高校ニュース

平成25年1月25日 加藤学園高等学校広報部発行 第31号



## 合唱コンクール開催される

平成24年度 第46回校内合唱コンクール 決勝 11月9日(金)

優勝  
クラス

SPⅡ1 「花をさがす少女」

心をひとつにする

— 学校長 加藤 瑠美子

高校生活を通じて学校行事は沢山ありますが、中でも忘れることの出来ない思い出の一つに合唱コンクールがあるのではないのでしょうか。今年度のコンクールは、どのクラスも甲乙付け難い、素晴らしい合唱ばかりでした。選曲や練習時間の確保等、これまですべてが順風満帆にはいかない点もあったに違いはないと思います。そうした苦勞を乗り越え、クラスが一丸となった時、あの素敵なハーモニーが生まれるのだと確信しました。

予想以上に決勝は、迫力あふれる白熱戦となりました。その興奮と緊張と満足感の余韻に浸かりながら、2年生は修学旅行に出発しました。私も本年度最後になるハワイで進学部2年生に同行しました。ワンデイトリップでポリネシア文化センターを見学し、その帰路の車中でドライバーとガイドの方への御礼にコンクールの歌を披露してくれました。コンクールそのままの美しいハーモニーは、二人を感激させ、ガイドの方は涙が止まらない様子でした。その光景は何とも言えない感動に包まれ、今も私の心に焼き付いて離れません。最近音楽家が、私の演奏を聴いて感動してもらえたらと言うことをよく耳にします。心を込めて歌ったり演奏した時に、聴衆がそれに深い感銘を受けたり、共感することで自然に拍手が起こり、時にはスタンディングオベーションに拡がるのが本当の感動です。本校の生徒の合唱には正にそうした力が具わっているのだと身にしみて感じました。

改めて生徒の皆さんの合唱に熱い拍手を送り、感謝したいと思います。